

高坐石（氷上町）

丹波の葛野郷に、片面がよくみがかれた四面岩がそびえたっています。

昔、里人たちが、お客さんをもてなす時は、この高坐石の下へいきました。

「きようは、お客が十人まいります。十人前のどうぐをかしてください。」と、いって、頭を地につけてまわっていると、コロン、コロコロと、こころよい音がして、その石の下から、ねがいものがでてくるのでした。

お客がかえると、かりものを、そっくり、その石の下において、帰ることにしていました。

ある時、欲ぶかい男が、かりた小道具をうりとばし、酒をのんでしまいました。

それからは、いくらたのんでも、石は、何もかしてくれなくなりました。

ある日、石工がこの岩の上へはいあがって、足ぶみすると、ポンポンと音がします。

「この中には、宝物があるにちがいない。」と、ノミとツチで石の下をほりはじめました。

すると、どこからか、白羽の矢がとんできました。石工が、おどろいて身をふせると、二本、三本と、とんでくるので、石工はとうとうにげかえってしまいました。

いまでも、岩の上へあがると、ポンポン、ひびくそうです。